

「日本にかくれなき名山」に築かれた城

The Castle built on the natural fortress being renowned in Medieval Japan

国指定史跡 日本百名城

鳥取城跡

世界ジオパークに認定される山陰海岸ジオパークのジオスポット・鳥取城跡（久松山^{きゅうしょうさん}）。大地が育んだ急峻な地形を持つ山は、戦国時代の山城を起源にした城跡です。防御性の高さや、山頂からの優れた眺めから、「日本にかくれなき名山」と評され、織田信長は「名城」と評しました。鳥取城は、歴史的に著名な羽柴（後の豊臣）秀吉の兵糧攻めの舞台になり、江戸時代には国内十二番目の石高を誇った鳥取藩三十二万石の居城となりました。その歴史の長さから、中世から近世に至る多様な城の姿を残しています。それ故に、鳥取城跡とその周辺は、日本城郭の歴史を物語る「城郭の博物館」と呼ばれています。



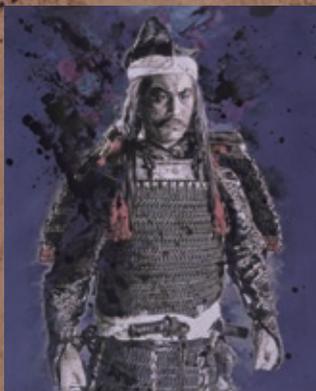
城の歴史

戦国時代の鳥取城

城は、16世紀中頃、守護大名山名氏一族の争いの過程で誕生しました。はじめは因幡山名氏の守護所の出城でしたが、1573年(天正1)、山名豊国は本拠地を湖山池東岸の天神山城より移転し、以後、鳥取城は因幡国(鳥取県東部)の拠点となりました。やがて、毛利氏の傘下となり、天下統一を目指す織田信長の武将・羽柴(のちの豊臣)秀吉との間で壮絶な籠城戦が繰り広げられました。

この頃の城の姿は、戦闘時は山城を利用し、通常の居住空間は山麓にありました。敵に登りやすい尾根には、尾根を切り盛りして平らな敷地を造り、その周囲に切岸と呼ぶ急な斜面を造り防御としました。まさに城の字のごとく、“土から成る”城であり、城と言えばイメージされる石垣や天守はなかったと考えられています。

日本十大籠城戦 鳥取城の兵糧攻めと太閤ヶ平



吉川経家

天下統一を目指す織田信長は、1580・81年(天正8・9)の2度にわたり、羽柴(のちの豊臣)秀吉を総大将とし、毛利方の最前線であった鳥取城を攻めました。2度目の城攻めの際、籠城した吉川経家に対し、秀吉は、織田信長の指示に従い、圧倒的な兵力で包囲網を敷き、一切の補給路を断つ「兵糧攻め」を行いました。これに耐えた鳥取城ですが、やがて兵糧も尽き果て城内は悲惨な状況に陥ったと言われています。ついに吉川経家は、城内で共に戦った部下や、城に避難した民衆の命と引き換えに自刃し、城は開城しました。

この戦いは、鳥取の「渴え殺し」と呼ばれ、秀吉の天下統一の布石となる重要なものとなりました。

秀吉の本陣は太閤ヶ平(P13・14参照)と呼び、現在でも当時の土塁や空堀がほぼ完全な形で残っています。

安土桃山時代の鳥取城

兵糧攻めの後、新たに城主となったのは、豊臣秀吉の側近として活躍した宮部継潤でした。彼は鳥取城に石垣や天守を築き(近世城郭)、城の姿を一新したとされます。息子の長房は、1600年(慶長5)の関ヶ原合戦で西軍に与したため、鳥取城は、東軍の鹿野城(鳥取市鹿野町)主、亀井茲矩や竹田城(兵庫県朝来市)主、赤松広秀(齋村政広)などの攻撃を受け、徹底抗戦の末に開城しました。

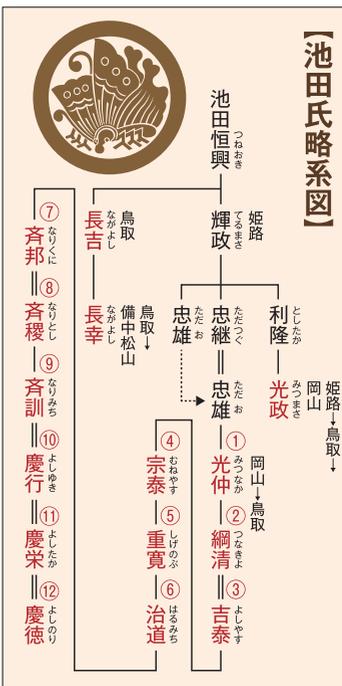
江戸時代の鳥取城

関ヶ原合戦後には、池田長吉が入ります。長吉は姫路城を築いた池田輝政の弟で、鳥取城は姫路城とともに、西国の豊臣系大名の抑えを担いました。

しかし、1615年(元和1)、大坂夏の陣で豊臣家が滅亡すると池田家は転機を迎えます。1617年(元和3)、姫路城主池田光政は所領減封の上、因幡伯耆32万石の領主として鳥取へ転封となり、現在の鳥取県域とほぼ同じ鳥取藩が誕生しました。

鳥取城は宮部時代から5、6万石規模の大名の居城に過ぎなかったため、池田光政は山麓を32万石の政庁として整備しました。

1632年(寛永9)、岡山城主池田忠雄の死去に伴い、3歳の光仲が家督を継ぐと、幕府は従兄弟・光政との国替を命じました。以後、鳥取城は光仲を藩祖とする鳥取池田家12代の居城となり、国内有数の大藩の政庁として存続しました。



鳥取池田家と徳川幕府

鳥取池田家の藩祖光仲の曾祖父は、徳川家康でした。そのため、鳥取池田家は特に江戸幕府から徳川家一門に準じて厚遇され、鳥取城は外様大名の居城としては唯一、城内の建物に葵紋の瓦を葺くことを許されました。鳥取城周辺や東京都内に残された数多くの遺構からはかつての栄華が偲ばれます。



池田光仲

国史跡 鳥取藩主池田家墓所

(鳥取市国府町奥谷)鳥取城跡から車で15分



初代光仲から11代慶栄の藩主墓を中心に、大小78基の墓と、多数の石燈籠が整然と並んでいます。

特別史跡 江戸城跡 中之門石垣

(東京都千代田区千代田)



中之門は、江戸城本丸の正門にあたる最も重要な門であり、現存する石垣は、1704年(宝永1)に3代藩主吉泰が修理したものです。

近代の鳥取城

明治維新の後、1873年(明治6)の廃城令では、鳥取城は軍事的な必要性が認められ、建物の多くも陸軍の施設として再利用されました。しかし、国内の治安が安定すると、陸軍の撤退が決定し、1879年(明治12)に不要となった建物のほぼ全てが撤去されました。

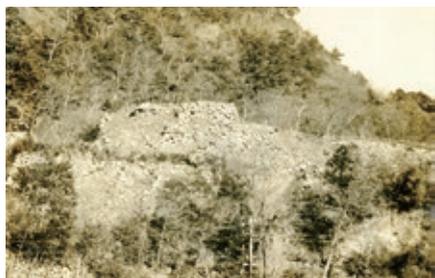
城跡はその後、三ノ丸や柵蔵跡が学校用地として転用されたほか、扇御殿跡に宮廷建築の第一人者である片山東熊の設計による仁風閣(国重要文化財)が建てられました。大正時代になると、市民から要望を受けた旧藩主鳥取池田家によって久松公園が整備されました。設計は、明治神宮外苑(東京都新宿区)の設計者でもある折下吉延でした。



仁風閣



御座所(仁風閣内)

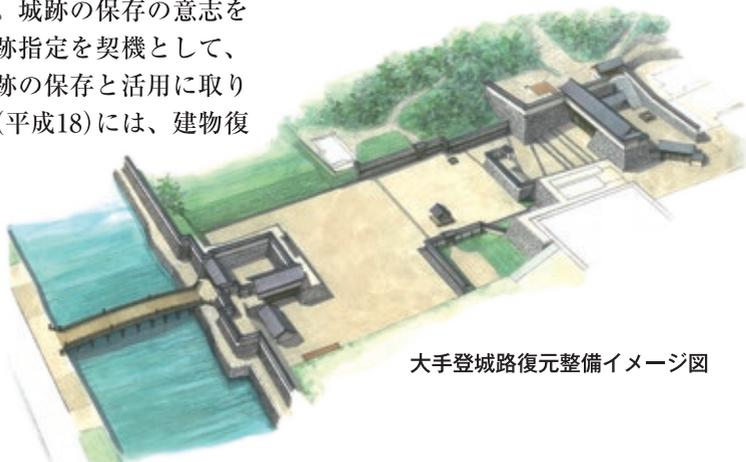


崩落した二ノ丸三階櫓台石垣(昭和34年頃)

現在そして未来の鳥取城

大正期以降、久松公園として親しまれた鳥取城跡ですが、1943年(昭和18)の鳥取大地震(震度6、死者1210名)によって城跡も大きな被害を受けました。

翌年、旧藩主鳥取池田家は、震災の復興に立ち向かう市民を勇気づけるため、鳥取城跡を鳥取市に寄贈します。城跡の保存の意志を引き継いだ市は、国史跡指定を契機として、石垣の修理を中心に城跡の保存と活用に取り組んでいます。2006年(平成18)には、建物復元を含めた長期的な整備計画を策定し、現在、城の正面玄関にあたる大手登城路の復元整備に取り組んでいます。



大手登城路復元整備イメージ図

《鳥取城年表》

時代	主な城主など	年号	出来事
戦国時代	山名誠通	16世紀中頃	この頃、久松山に但馬山名氏によって砦が築かれる。
	武田高信	1562年(永祿5)	武田高信が久松山を拠点として、因幡守護の山名氏に反逆する。
	山名豊国	1573年(天正1)	武田高信を退けた因幡守護山名豊国が、布施天神山城から鳥取城に本拠地を移転する。
		1580年(天正8)	羽柴秀吉の第1回鳥取城攻め。山名豊国、降伏するが、毛利方が鳥取城を再奪還する。
安土桃山時代	吉川経家	1581年(天正9)	羽柴秀吉の第2回鳥取城攻め。兵糧攻めの末、吉川経家の切腹で毛利方降伏する。
	宮部継潤		新たに入城した宮部継潤が鳥取城に入り、その後近世城郭に改修する。
江戸時代	宮部長房		関ヶ原合戦に伴い西軍に与した鳥取城が攻撃される。
	池田長吉・長幸	1600年(慶長5)	池田長吉が城主となる。
	池田光政	1617年(元和3)	池田光政が城主となり、鳥取城が鳥取藩32万石の居城となる。
		1619年(元和5)	この頃、城と城下町の大改修が行われ、現存する城跡の構造が整う。
	鳥取池田家	1632年(寛永9)	池田光政が城主となる(鳥取池田家の成立)。やがて鳥取城下に水道施設が整備される。
		1692年(元禄5)	天守が落雷により焼失し、以後再建されず。
		1718年(享保3)	三ノ丸の拡張が行われ、藩主(城主)の居所が二ノ丸から三ノ丸へ移る。
		1720年(享保5)	城下の大火(石黒大火)により鳥取城も延焼する。
		1721年(享保6)	三ノ丸を中心に再建が開始され、3年後に完成する。
		1728年(享保13)	石黒大火で被災した二ノ丸三階櫓石垣の修理が完了する。
		1735年(享保20)	二ノ丸の三階櫓、走櫓は再建されるが、御殿は再建されず。
		1807年(文化4)	この頃、天球丸の巻石垣が築かれる。
		1825年(文政8)	幕府より屋根瓦に葵の紋を用いることを許可される。
		1846年(弘化3)	二ノ丸の御殿、菱櫓、表御門など再建され、一時的に藩主の居所が三ノ丸から二ノ丸へ移る。
1849年(嘉永2)	二ノ丸が西方に拡張される。		
1858年(安政5)	三ノ丸の南側に柵蔵が建てられ、城域が拡張される。		
1861年(文久1)	三ノ丸が拡張される。		
1863年(文久3)	扇御殿、宝隆院庭園(現存)が造営される。		
1867年(慶応3)	西坂下御門(現・復元門)が創建される。		
明治政府	1871年(明治4)	廃藩置県後、兵部省の管轄となり、政庁の機能が城外に移転する。	
	1873年(明治6)	廃城令で軍事上の必要性が認められた鳥取城は、存城となり、陸軍省の所管となる。	
	1875年(明治8)	陸軍省によって不要な71棟の建物が解体撤去される。	
	1877年(明治10)	姫路歩兵隊の分遣隊派遣が決定し、三ノ丸御殿等を転用した兵舎が整備される。	
	1879年(明治12)	西南戦争終結後、治安安定により分遣隊の撤退が決定。それまでの城内に残された大型建造物(二ノ丸三階櫓等)が解体撤去される。	
	1889年(明治22)	陸軍によって中学校用地として鳥取県へ無償貸与され、三ノ丸に尋常中学校が建つ。	
近現代	旧藩主鳥取池田家	1890年(明治23)	陸軍から旧藩主鳥取池田家へ城跡の払い下げがなされる。
		1907年(明治40)	扇御殿跡に仁風閣が建つ。
	鳥取市	1923年(大正12)	久松公園開設。翌年、城代屋敷跡に鳥取公設運動場(現・鳥取県立博物館敷地)開設。
		1936年(昭和11)	久松山全山が市民に開放される。
1943年(昭和18)	鳥取大地震で被災する。翌年、城跡が旧藩主鳥取池田家から鳥取市へ寄贈される。		
1957年(昭和32)	国史跡に指定される。		

鳥取城跡 & 太閤ヶ平ルートマップ

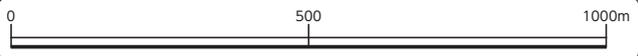
鳥取城をめぐる戦いや天災の犠牲者を慰霊するために建立されました。

天空の城で有名な竹田城（兵庫県朝来市）、最後の城主・赤松広秀（斎村政広）を祀った神社です。

三日三晩で江戸と鳥取を往復したという伝説を持つ狐を祀った神社です。

山中を歩く場合は次のことに注意してください

- 【山道】・滑りやすい箇所があります。特に下りの際には十分に注意しましょう。
- 【服装・持ち物】・スポーツドリンクなどを携行し、十分な水分補給をしましょう。
- ・運動のできる服装でスポーツシューズなどを履きましょう。
- ・クマ除け鈴などを利用し、クマに注意しましょう。
- ・ハチ、イノシシなどに注意しましょう。
- 【見学マナー】・管理用アスファルト道への一般車両の通行はできません。
- ・むやみに土壘や空堀、石垣などを登らないでください。
- ・許可を得ず、立木の伐採や植物の採取をしないでください。

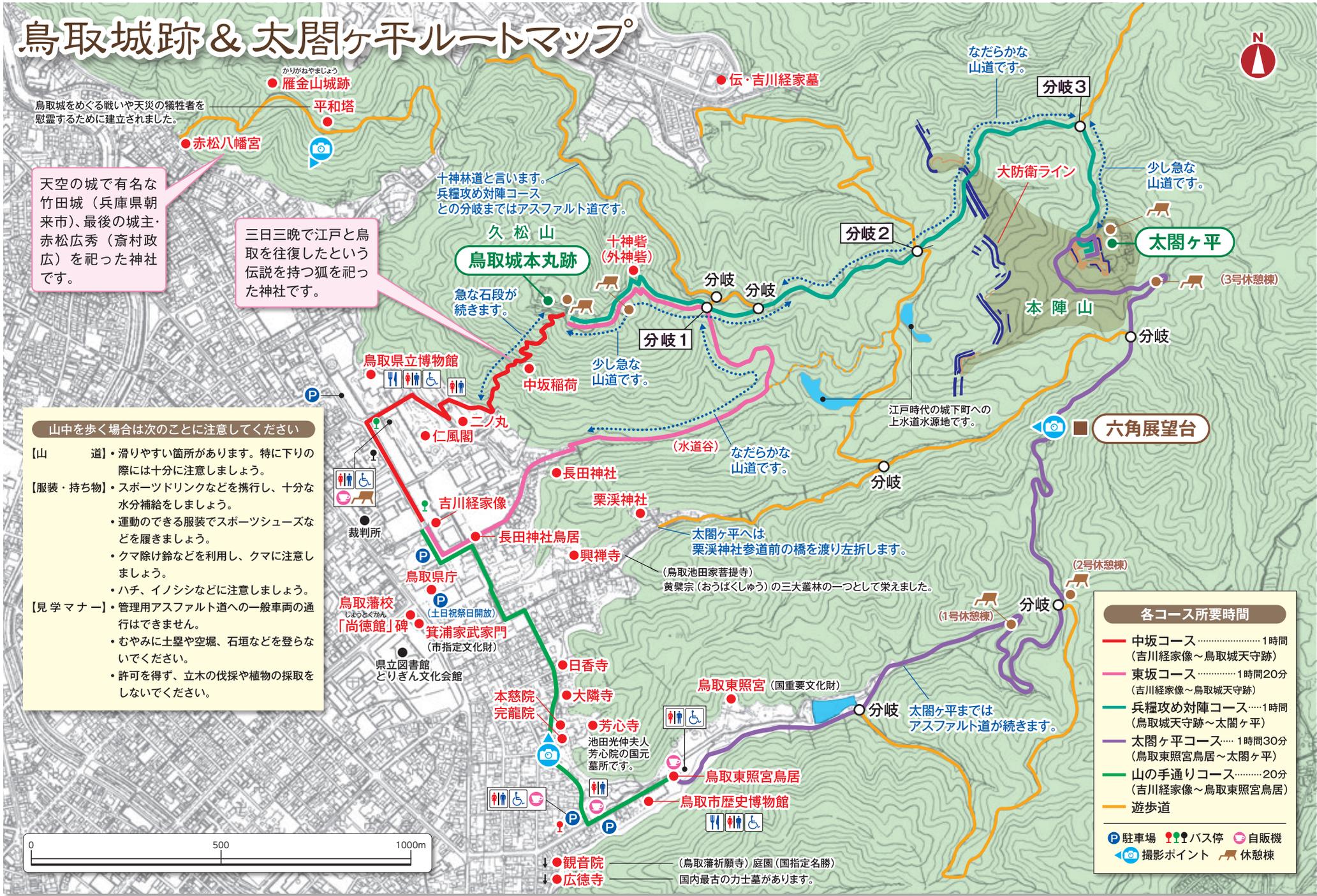


● 観音院 (鳥取藩祈願寺) 庭園(国指定名勝)
● 広徳寺 国内最古の力士墓があります。

各コース所要時間

- 中坂コース……………1時間
(吉川経家像～鳥取城天守跡)
- 東坂コース……………1時間20分
(吉川経家像～鳥取城天守跡)
- 兵糧攻め対陣コース……………1時間
(鳥取城天守跡～太閤ヶ平)
- 太閤ヶ平コース……………1時間30分
(鳥取東照宮鳥居～太閤ヶ平)
- 山の手通りコース……………20分
(吉川経家像～鳥取東照宮鳥居)
- 遊歩道

- 🅑 駐車場 🅒 バス停 🅓 自販機
- 📷 撮影ポイント 🏠 休憩棟



鳥取城を歩く —山下ノ丸編—

世界文化遺産・姫路城の“弟城” 江戸時代の鳥取城二ノ丸の姿



1879年(明治12)撮影

山下ノ丸の中心であった二ノ丸の建物は、姫路城から移った池田光政の頃の創建と考えられ、祖父池田輝政が姫路城大天守(兵庫県姫路市)を築いた際の職人達関わったと想定されます。この頃、幕府による築城規制があったため、鳥取城内には、高層の櫓はありませんが、二ノ丸三階櫓は、山陰地方で初めての層塔型の櫓とされ、山頂の天守焼失後の象徴でした。また、姫路城大天守が築かれてから約10年後、同じ職人達によって再整備された鳥取城二ノ丸の姿は、世界文化遺産・姫路城の“弟城”とも言えるものでした。

鳥取県立博物館



日本100名城スタンプ公式押印場所

ガイドン施設「鳥取城跡・仁風閣 展示館」

鳥取城跡や仁風閣の映像やパネル展示のほか、御城印も販売しています。

【日時】9:00~17:00

【入館料】無料

【休館日】月曜(月曜が祝日のとき翌平日)、祝日の翌日、年末年始

【ガイド】とっとり観光ガイド友の会「きなんせえ家」

土日祝のみ(夏、冬期休あり)

【問い合わせ先】0857-26-3595 (鳥取城跡・仁風閣 展示館)

普通車 6台
 標準車 2台
 バス 1台



久松山の麓にあたる山下ノ丸は、鳥取藩三十二万石の居城だった頃の面影を今に伝えています。また、近代以降の都市の記憶を示した遺構も残っています。

見学制限エリア ※工事の進捗によって制限エリアが広がる場合があります。

駐車場
 「くる梨 緑コース」バス停
 「ルーフ麒麟獅子」バス停
 自販機
 撮影ポイント
 休憩棟

普通車 67台
 ハートフル専用 2台

1 吉川経家公像

1920年(大正9)、鳥取吉川経家遺徳顕彰会が設立されるなど、吉川経家は忠義ある武将として古くから市民に慕われています。



2 大手登城路

1621年(元和7)、城の正面玄関として整備されました。現在、擬宝珠橋(ぎぼしぼし)と申ノ御門(なかのごもん)が復元されています。



3 切石積石垣

城内唯一の白色花崗岩の切石積石垣です。



4 山下ノ丸最古の石垣

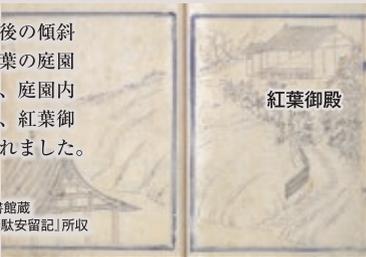
宮部時代に築かれたとされる石垣です。



5 紅葉御殿跡

三ノ丸背後の傾斜地は、紅葉の庭園が広がり、庭園内の建物は、紅葉御殿と言われました。

鳥取県立図書館蔵
『稲葉佳景 無駄安留記』所収



6 登城路から二ノ丸、天球丸を望む

鏡石(かがみいし)を配した石垣の他、高低差を利用した登雁木(のほりがんぎ)などの石垣が重なって見えます。



7 天球丸・巻石垣(復元)

1807年(文化4)頃に背後の石垣が孕(はら)み出し、その崩落を防止するため築かれた球面石垣です。



8 時代の異なる建物跡(復元)

石垣修理で見つかった天球丸三階櫓と武具蔵の出土状況を再現しています。



9 八幡宮跡

10代藩主池田慶行の産土神である三田八幡宮(現・御田八幡神社)(東京都港区)を勧請した神社の跡です。境内は巻石垣を応用して築かれています。



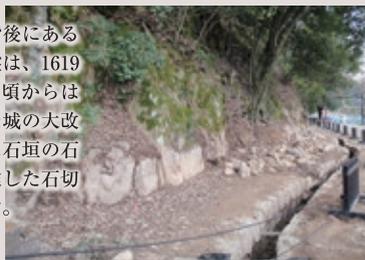
10 お左近の手水鉢

三階櫓の石垣を築く際にお左近(鳥取城の改築で活躍した女中)の手水鉢を築き込んだことで無事工事が完了したと伝わっています。



11 石切場

二ノ丸背後にある露出岩盤は、1619(元和5)頃からはじまった城の大改修の際に石垣の石材を調達した石切場跡です。



12 登石垣

1849年(嘉永2)に拡張された二ノ丸の北端には、幕末のものとしては国内唯一の登石垣が築かれました。



13 西坂下御門(復元)

1867年(慶応3)に創建されましたが、1975年(昭和50)の大風で倒壊破損し、現在の門が復元されました。



14 鳥取運動場碑

もと城代屋敷、厩(うまや)、米蔵の敷地は大正時代に運動場として利用されました。山際には当時の観客席や掲揚台の基礎が残っています。



15 宝隆院庭園(市指定名勝)

参勤交代緩和で1863年(文久3)に11代藩主夫人が帰国し、扇御殿と庭園が新たに造られました。その御殿跡に仁風閣が建ちました。



16 小鍛冶の石船

鎌倉時代の刀工因幡景長が焼き入れに使用したとされる石船です。もと二ノ丸走櫓の縁側にありました。



鳥取城を歩く —山上ノ丸編—

さん じょう の まる

久松山の山頂にあたる山上ノ丸は、山城としての高い防御性と眺めの良さを兼ね揃えた戦国時代から江戸時代初めの姿を今に伝えていません。険しい山登りの末、頂に立てば「日本にかくれなき名山」と称された理由が実感できます。眼下には鳥取平野の他、日本海にそって鳥取砂丘や遠く中国地方最高峰の大山も望むことができます。また、東には兵糧攻めの際に、秀吉が本陣を構えた本陣山を、鳥取城を守った吉川経家が見た山の姿のまま、今も望むことができます。



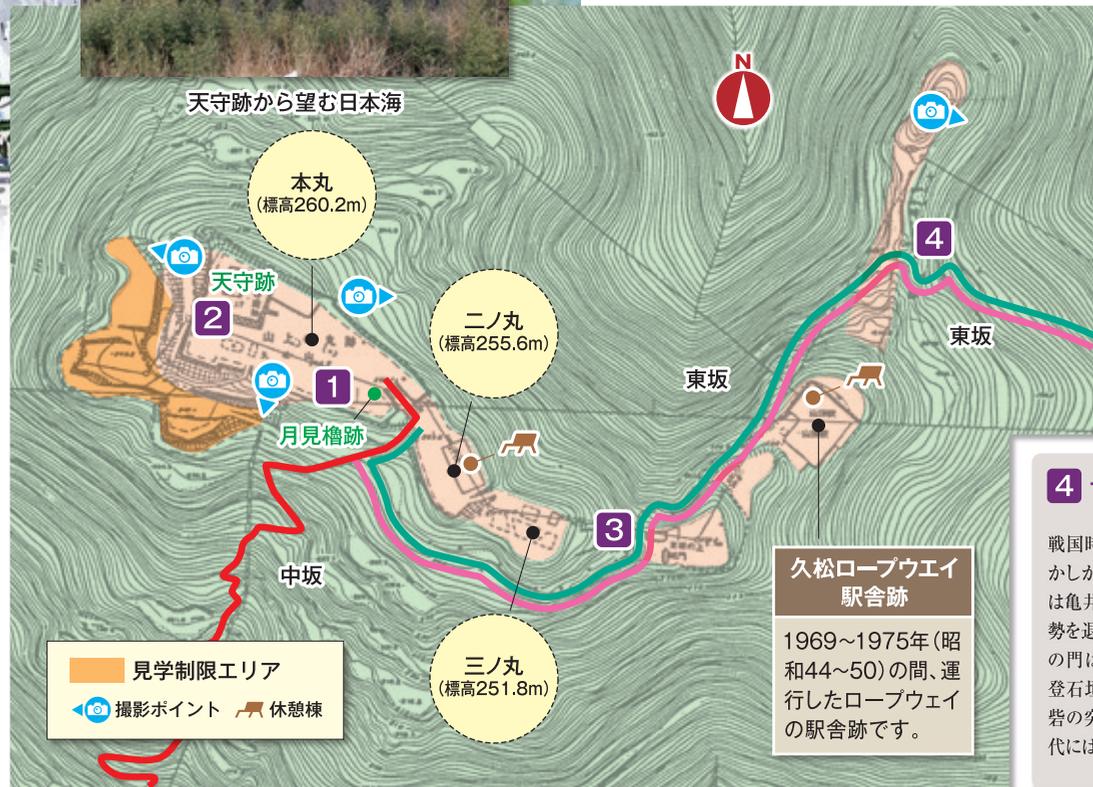
天守跡から望む日本海



本丸から望む鳥取平野



本丸から望む本陣山



鳥取県立博物館蔵

江戸時代の山上ノ丸の姿

落雷によって焼失するまで、本丸には天守がそびえていました。宮部時代の三階建のものを池田長吉が二階建てに改築したと言われています。天守の屋根は、茶色で描かれているため柿(こけら)葺であったと考えられています。

1 車井戸

池田長吉の時代に3年の歳月をかけて掘られたと言われます。



2 天守台

1辺が約10間(約20m)と城内最大の櫓台です。中央には、穴蔵という貯蔵庫がありました。南東側に付櫓(つけやぐら)があり往時はここから天守に出入りしたと考えられます。



3 東坂の上城門

斜面を遮る登石垣が付属しており、倭城(わじょう)(文禄・慶長の役に際して日本軍が朝鮮半島の南部各地に築いた日本式の城)との関連性が指摘されています。



4 十神砦(外神砦)

戦国時代には山中鹿之助(やまなかしかのすけ)、関ヶ原合戦時には亀井茲矩(かめいこれのり)の軍勢を退けたと伝わっています。中央の門は3東坂の上城門と同じく登石垣や石塁で守られています。砦の突端には巨岩があり、江戸時代にはその前に神社がありました。



たい こう が なる 太閤ヶ平を歩く

太閤ヶ平は、鳥取城山上ノ丸から東に1.5kmの地点、本陣山と呼ばれる山の頂（標高251m）にあります。1581年（天正9）の兵糧攻めに際して築かれた陣城（戦いのために臨時的に築かれた城）群の本陣で、織田信長の家臣であった羽柴秀吉が約100日間全軍指揮にあたった場所です。そこからは、秀吉のほか、後に築城の名手として知られる加藤清正や藤堂高虎、キリシタン大名で著名な高山右近、秀吉の軍師として活躍した黒田官兵衛などの武将が見た鳥取城の姿を、今も望むことができます。



日本最高傑作の土の陣城 太閤ヶ平の構造



太閤ヶ平の構造は、秀吉の三大城攻めとされる三木城（兵庫県三木市）攻めや、備中高松城（岡山県岡山市）攻めの本陣と比較しても圧倒的な土木量を誇り、日本最高傑作の土の陣城と評されています。鳥取城は、織田信長が毛利と雌雄を決する場として想定していた戦場でした。このことから太閤ヶ平は織田信長の出陣を前提に築かれたと考えられています。

1 太閤ヶ平周辺から見た鳥取城

鳥取城を守る吉川経家が、日本海からの補給路として築いた岩群の山並みを望むことができます。



2 大手虎口

大手虎口は、両端部に築かれた櫓台と窪地状突出部の土塁上双方から攻撃ができるようになっています。



3 窪地状突出部

船の先端を思わせるような構造で、狭い入口に窪地があり、半地下式構造をもつ天主のような象徴的な建物があつたという説があります。



4 多重の堀と大防衛ライン

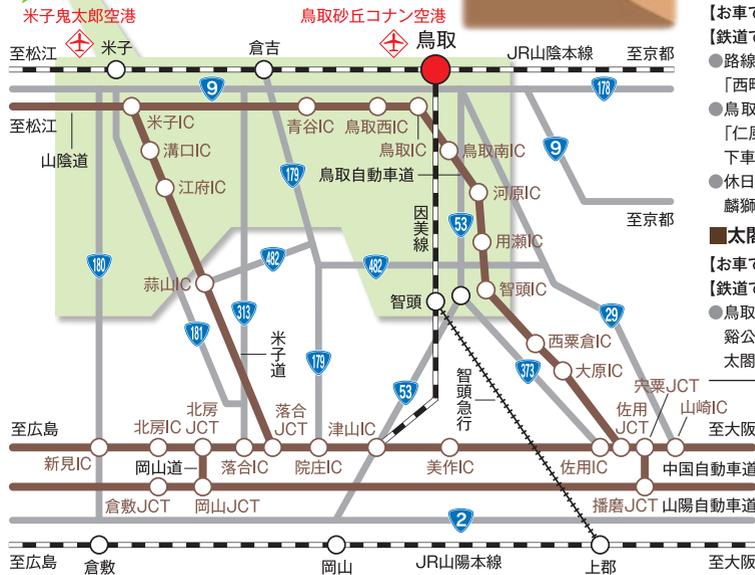
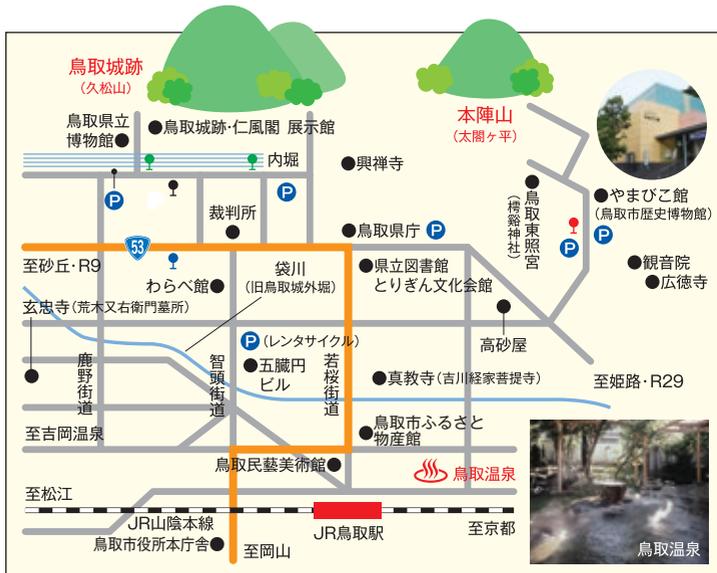
太閤ヶ平の鳥取城側は、総延長700mに及ぶ堅堀（たてぼり）・横堀（よこぼり）が掘られ、巨大な防衛ラインを形成しました。



《鳥取城アクセス》

日本100名城 スタンプ

「日本100名城」のスタンプは鳥取城跡・仁風閣 展示館に設置しています。展示館休館（月曜及び祝日の翌日）の場合は鳥取県立博物館又は鳥取市ふるさと物産館、鳥取市役所本庁舎1F総合案内所にお越しください。



《交通アクセス》

■鳥取城跡入口まで

(久松山)頂へは、徒歩約1時間)

【お車で】鳥取ICから車で10分

【鉄道で】JR山陰本線鳥取駅から

●路線バス「砂丘」または「湖山」方面行きで「西町」下車、徒歩5分。(●)

●鳥取市100円バス「くる梨 緑コース」で「仁風閣・県立博物館」または「市立武道館」下車すぐ。(●)

●休日および夏季運行の観光バス「ループ麒麟獅子」で「鳥取城跡」下車すぐ。(●)

■太閤ヶ平登山口まで

【お車で】鳥取ICから車で15分

【鉄道で】JR山陰本線鳥取駅から

●鳥取市100円バス「くる梨 赤コース」で「掃部公園・やまびこ館前」下車(●)、徒歩5分、太閤ヶ平(秀吉本陣)まで徒歩約1時間30分

鳥取市教育委員会事務局文化財課

お問合せ

〒680-8571 鳥取市幸町71番地

電話 0857-30-8422 FAX 0857-20-3954

E-mail kyo-bunka@city.tottori.lg.jp

2015年3月31日 発行
2024年5月31日 改訂
2025年6月26日 改訂